

Sheet1

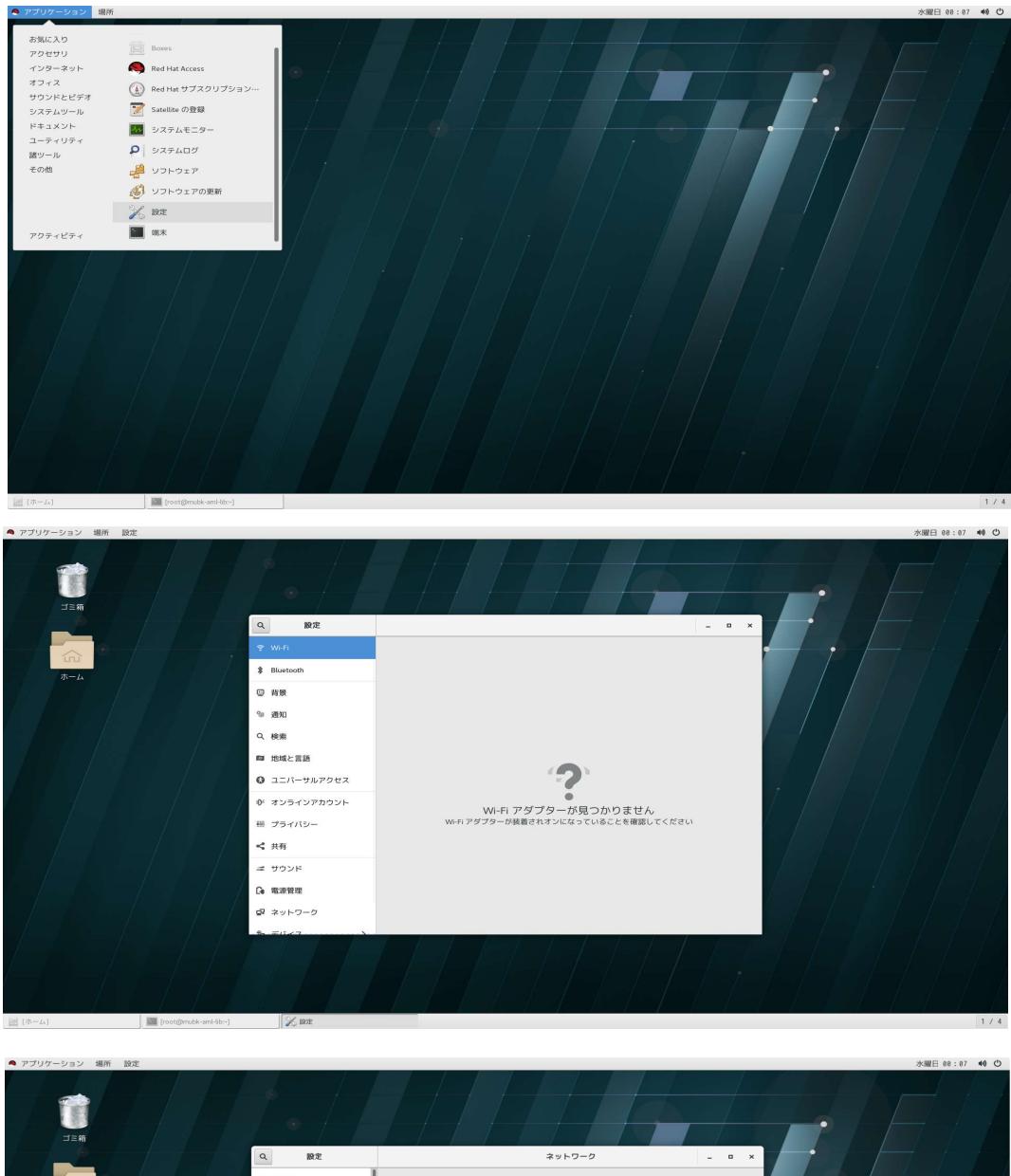
1. Windows7のネットワーク設定確認
2. RHELのMACアドレス確認
3. RHELのネットワーク設定
4. Windows7にてルーターの設定バックアップ[¶]
5. Windows7にてルーターの設定変更
6. Windows7のLANケーブルを抜いて、RHELにLANケーブル差し込み
7. RHELネットワーク稼働確認

1. Windows7のネットワーク設定確認

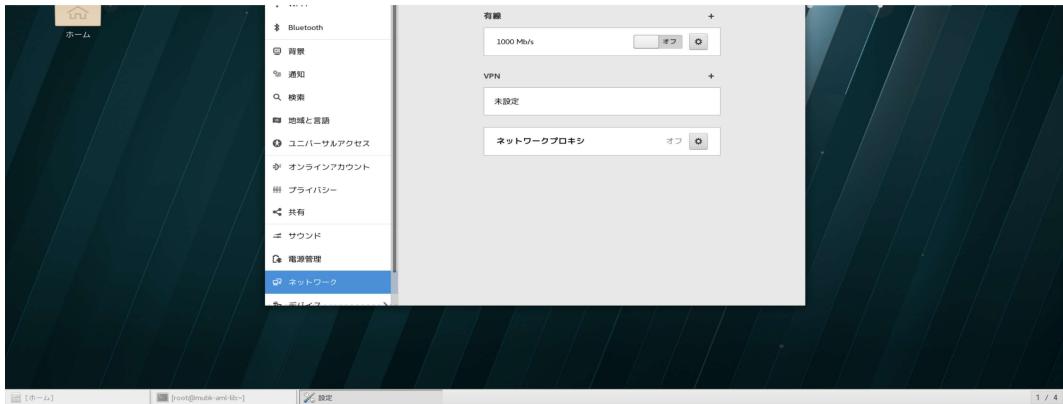
前回確認したのと同様の手順

http://www.mco.ne.jp/internet_manual/internet_set/local_setting/windows_7/index.html

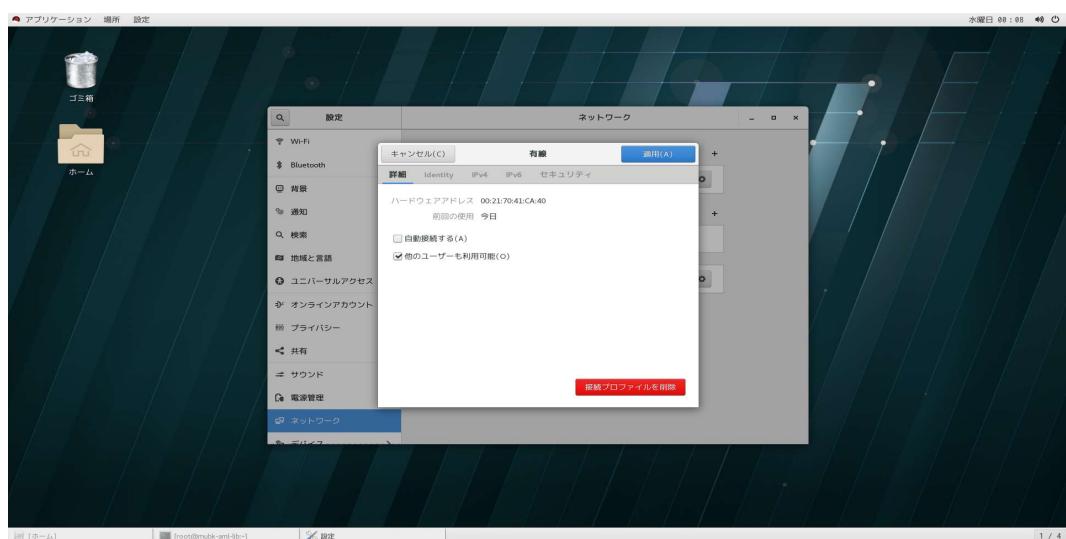
2. RHELのMACアドレス確認



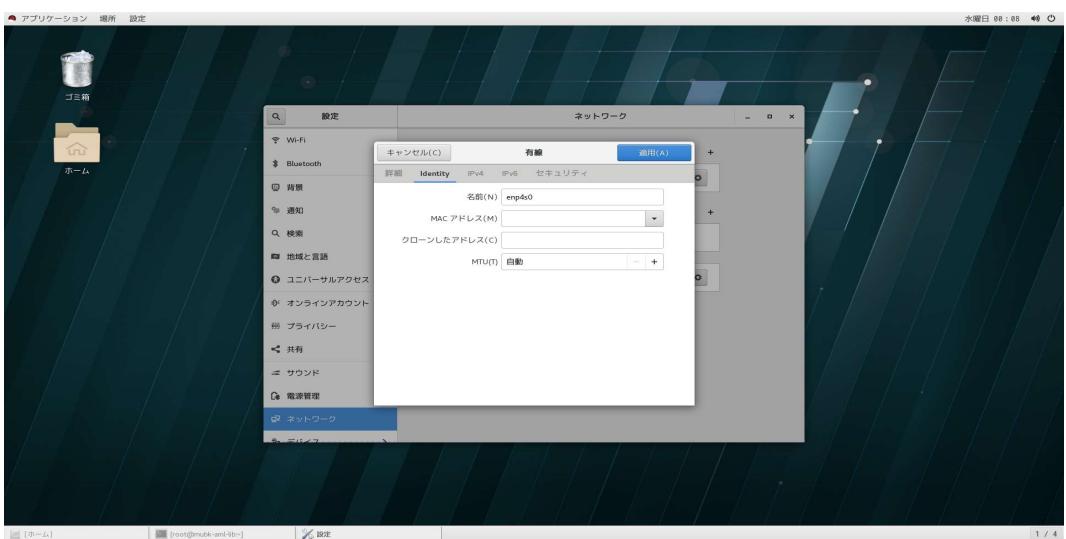
Sheet1



ハードウェアアドレスに記載の内容がMACアドレス
RHELの端末はLANケーブルの差し込み口が複数ある可能性がある
どちらに指しているか確認してメモしておく



NIC(ネットワークのアダプター)の名前 → LANケーブルを指す口



上記NICのデバイスの状況をコマンドで確認



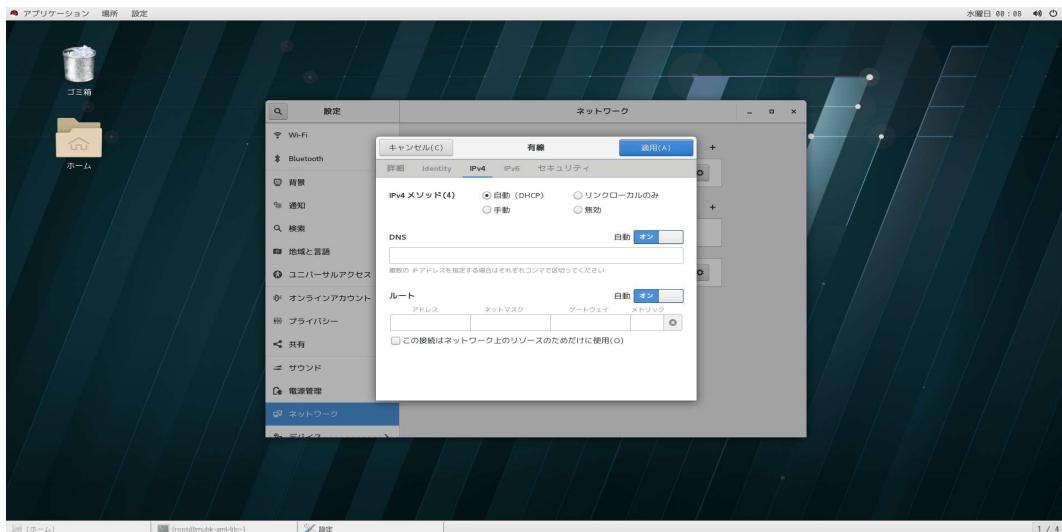
Sheet1

```
root@multib-aml-0b:~# ifconfig  
eth0      Link encap:Ethernet HWaddr 00:0c:29:1d:01:00  
          brd 00:0c:29:1d:01:00  MTU:1500  Metric:1  
          RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0  
          TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0  
          collisions:0 txqueuelen:1000  
          RX bytes:0 (0.0 B)  TX bytes:0 (0.0 B)  
          Interrupt:15 Base address:0x2000  
  
lo       Link encap:Local Loopback  
          brd 0.0.0.0  MTU:16436  Metric:1  
          RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0  
          TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0  
          collisions:0 txqueuelen:0  
          RX bytes:0 (0.0 B)  TX bytes:0 (0.0 B)  
  
root@multib-aml-0b:~# ip link  
1: eth0: <NO-CARRIER,BROADCAST,MULTICAST,UP> mtu 1500 qdisc mq  
    link/ether 00:0c:29:1d:01:00 brd ff:ff:ff:ff:ff:ff state DOWN  
    queueing discipline: noqueue  
2: lo: <LOOPBACK,NO-CARRIER,BROADCAST,MULTICAST,UP> mtu 16436 qdisc mq  
    link/ether 00:00:00:00:00:00 brd ff:ff:ff:ff:ff:ff state DOWN  
    queueing discipline: noqueue  
  
root@multib-aml-0b:~# ip link set dev eth0 up  
root@multib-aml-0b:~# ip link show  
1: eth0: <NO-CARRIER,BROADCAST,MULTICAST,UP> mtu 1500 qdisc mq  
    link/ether 00:0c:29:1d:01:00 brd ff:ff:ff:ff:ff:ff state UP  
    queueing discipline: noqueue  
        txqueuelen:1000 (1000B)  
        RX: 0 B (0.0 B)  TX: 0 B (0.0 B)  loss:0%  pause:0+0 usec  
        RX bytes:0 (0.0 B)  TX bytes:0 (0.0 B)  
        RX drop:0 B (0.0%)  TX drop:0 B (0.0%)  
        RX errors:0  TX errors:0  dropped:0  overruns:0  carrier:0  
        collisions:0  txqueuelen:1000  
        interrupt:15 baseaddr:0x2000  
2: lo: <LOOPBACK,NO-CARRIER,BROADCAST,MULTICAST,UP> mtu 16436 qdisc mq  
    link/ether 00:00:00:00:00:00 brd ff:ff:ff:ff:ff:ff state DOWN  
    queueing discipline: noqueue
```

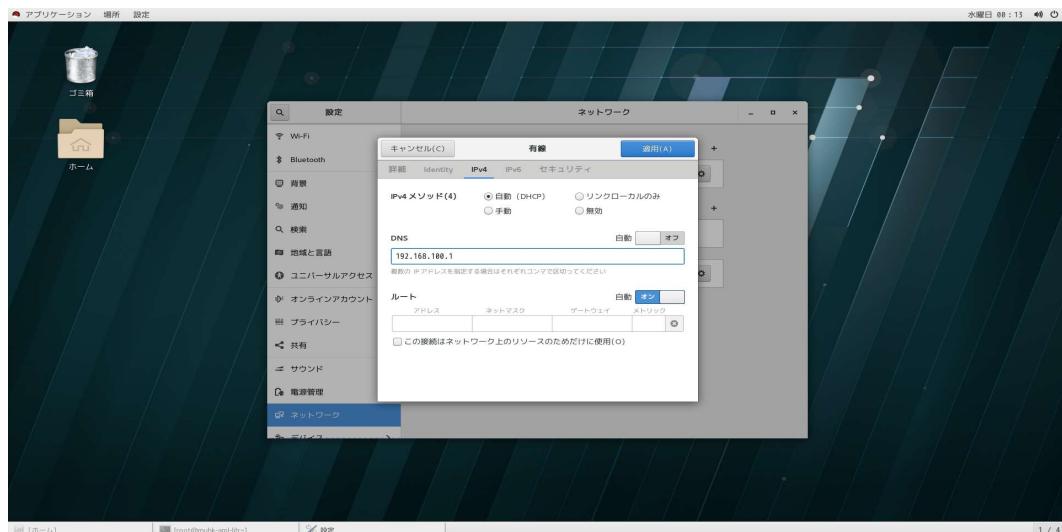
3. RHELのネットワーク設定

ここがメインの設定画面

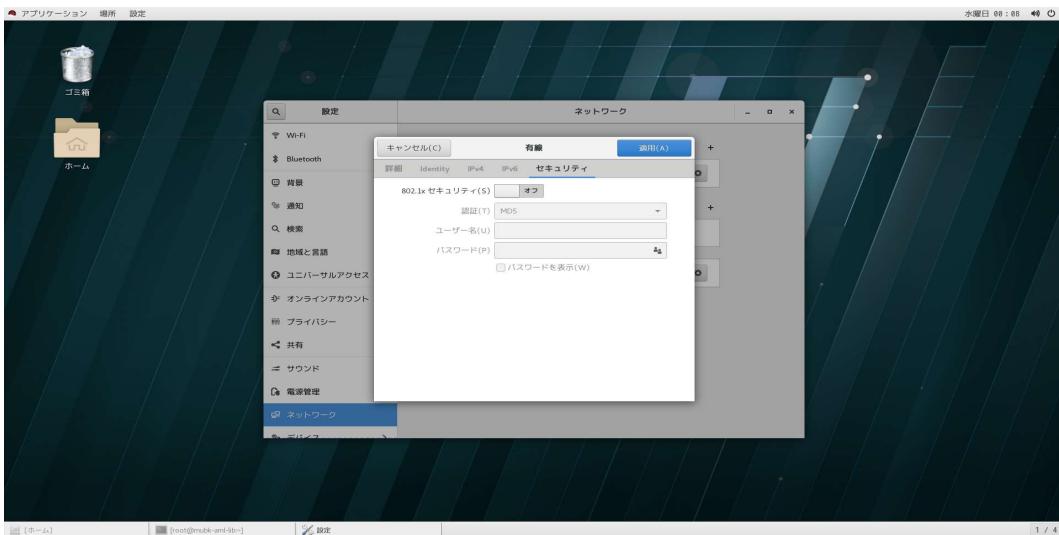
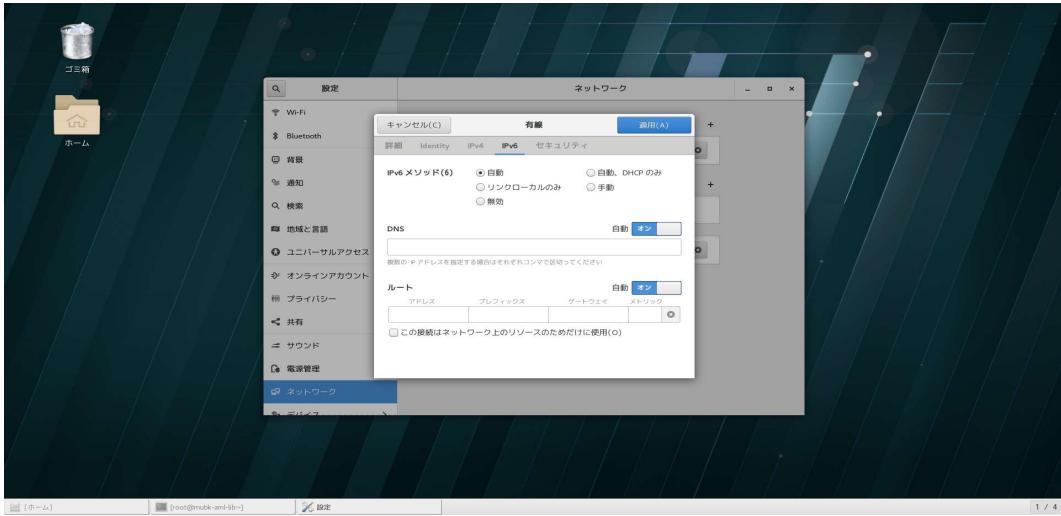
DNSサーバーだけ固定するか、自動にするか臨機応変に



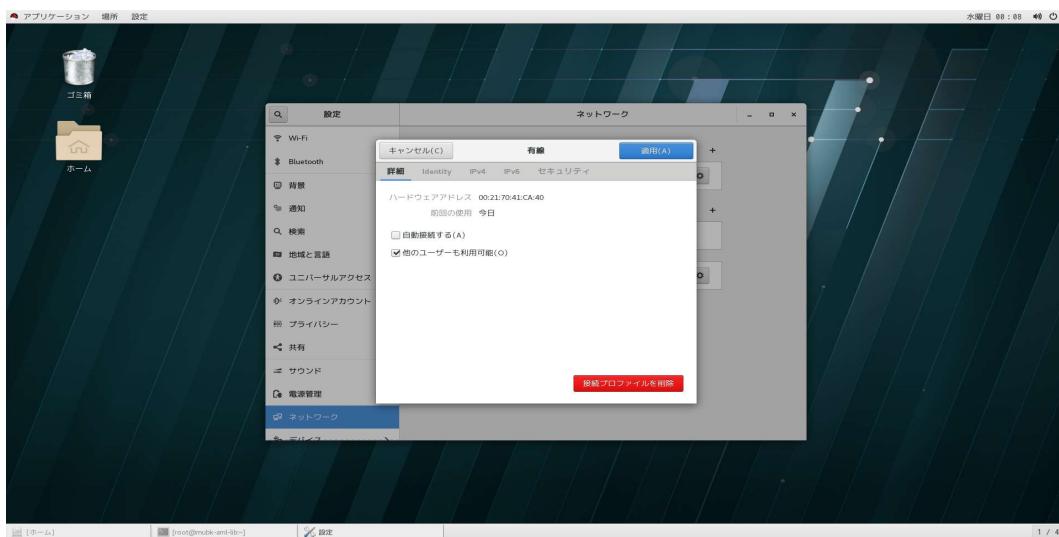
DNSを固定にするなら下記のような感じで設定する



Sheet1



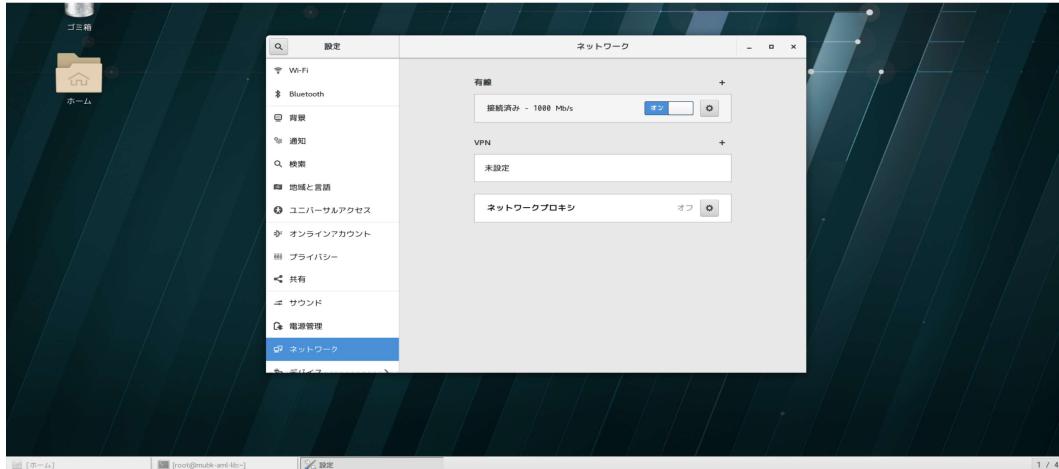
詳細タブに的部分で「自動接続する」をチェックする ※この絵ではチェック入っていないが、入れる



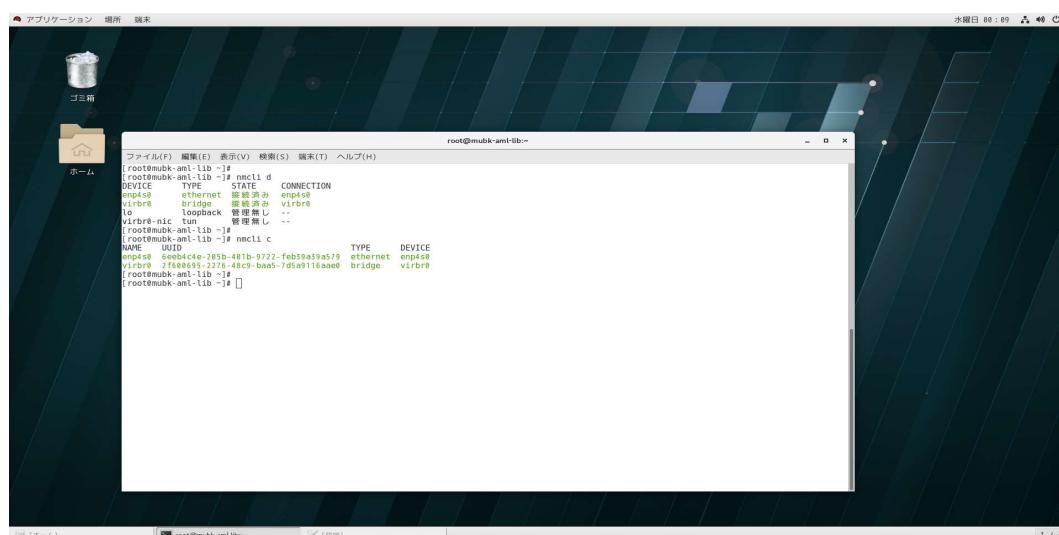
有線の接続をONする



Sheet1



ネットワーク接続をONにしたら、デバイスの状態が変わると思う。。。



4. Windows7にてルーターの設定バックアップ

ルーターの設定方法の中で、設定内容（現在設定しているMACアドレス）をテキストファイルに保存する

(3) Windows7 端末のネットワークセットアップ

・ルータへの接続端末の設定

※ 室内ネットワークは、特定の端末以外ルータへのアクセスが出来ないよう、DHCPで配布されるIPアドレスとMACアドレスを紐付けて設定している為、端末を追加・変更する場合は ルータの設定を変更する必要がある。

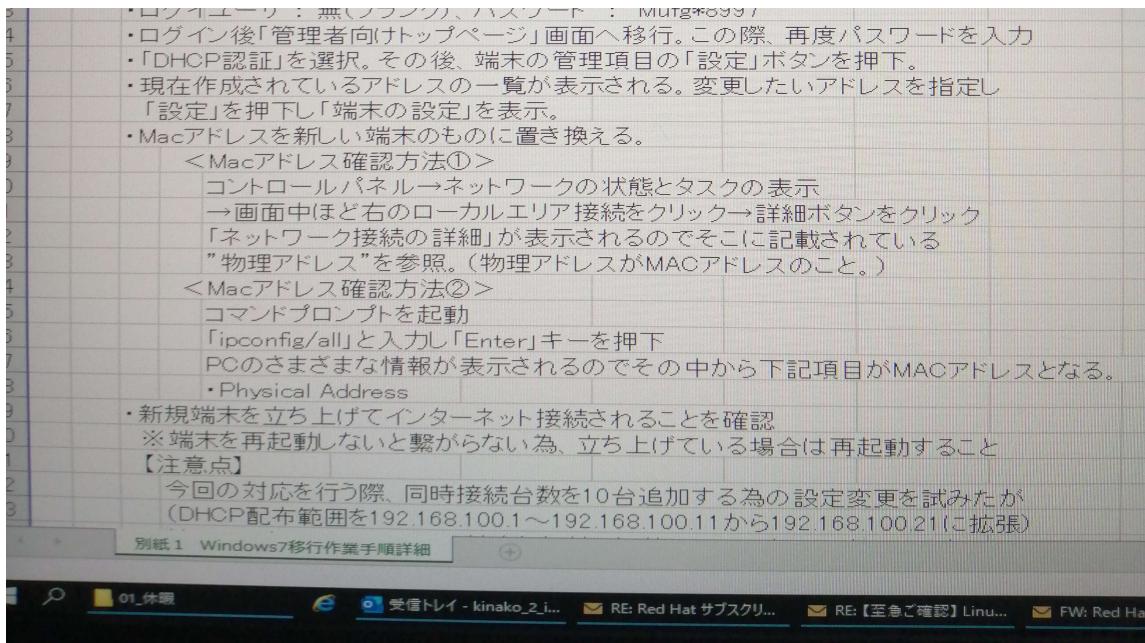
現在は11個のアドレスを設定している(1つはルータのアドレス)。

今回の対応は、配布IPアドレスに紐づいているMACアドレスをWindowsXPの端末から、Windows7の端末機書き換えを行うことで、~~ルータネットの設定を行った。~~

<ネットワーク設定変更手順>

- ・ブラウザ(IE)を使用しルータの設定画面へアクセスを行う
- ・(アドレスバーにルータのIPを入力 → 192.168.100.1)
- ・ログイン - パスワード - ログインボタン

Sheet1



5. Windows7にてルーターの設定変更

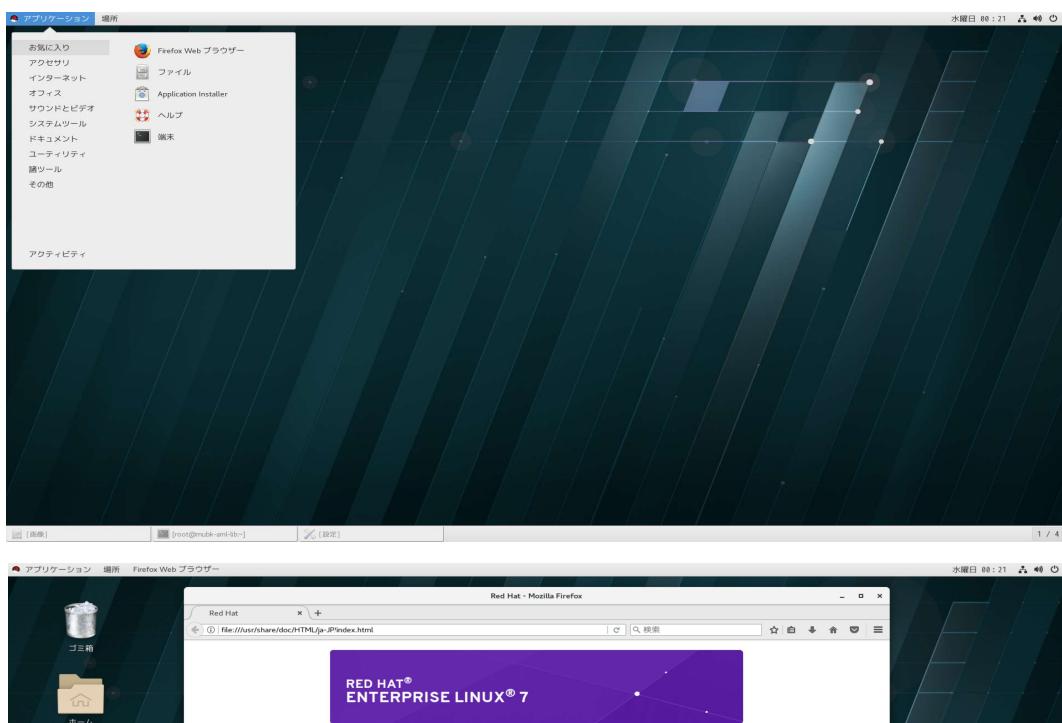
2.で確認したMACアドレスに変更

6. Windows7のLANケーブルを抜いて、RHELにLANケーブル差し込み

RHELはLANケーブルの差し込み口が複数ある可能性がある。

どちらでも問題ないが、MACアドレスはそれぞれ付与されているとなると、ルーターに登録したMACアドレスのLANケーブル差し込み口にLANケーブルを入れる。

7. RHELネットワーク稼働確認



Sheet1

